

平成政治史を総括する

朝日新聞政治部編集委員

曾

我

豪

- * 自民党長期政権の終わり
- * 早く決める政治への願望
- * 交代可能な二大政党制
- * 二つのテーゼの問題点
- * 石破善戦説の不毛
- * 亥年選挙はどうなるか
- * レームダックの条件は三つ
- * 安倍政権のレガシー
- * 選挙制度改革の要諦
- * 野党に足りないのは言葉



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

自民党総裁選で安倍首相の三選が決まりました。今日はその直後ということで、朝日新聞の曾我さんにおいでいただきました。

今日は、自民党の平成期の政治を総括しながら、この総裁選をどう考えるか。世間では石破さんが善戦ということですが、善戦という意味がどういうことで、これからの政治にどう影響してくるのか。その辺も含めて今日はお話をさせていただきます。安倍政治の今後を見通す意味で、今日は重要なお話になると思います。それでは曾我さん、よろしくお願いたします。（拍手）

曾我 朝日新聞の曾我です。今日はよろしくお願いたします。

何年前かに初めて呼んでいただいて、非常に歴史のあるこの会でお話しできることをその都度光栄に思っています。さらに言ううと、年に一度ぐらいすごくちゃんとした講演会に呼ばれることで、私が入ってきたことを年に一度ぐらいはきちんと振り返って、なおかつオフレコの話もしてしまうのですけれども、講演録で後に残していただけるということで、私にとっては実は非常に大きなその年ごとの節目の講演会だと思っております。

特に、今回はもちろん皆さんのご関心は安倍政権がどうなっていくのかということにあると思います。もう平成も終わっていくわけです。私にとって平成の政治が何だったのかということ、やはり考えていかなくてはいけない話題